

## 宮崎汎会員が見た世界の旅第3部歴史編第5話

### アメリカ合衆国事始め

初めての海外出張はアメリカであった。1968年1月羽田空港を飛び立ちハワイを目指した。当時ハワイで給油しなければまだアメリカ本土まで到達できない時代であった。サンフランシスコを起点に東海岸のニューヨークで公式スケジュールが終わり、職場から10日間の休暇を与えられ気ままにアメリカ一人旅をすることにした。

アメリカが独立宣言をした、いわばアメリカ誕生の地であるフィラデルフィアへは何としても行って見たかった。自由の鐘とアメリカ国旗のオリジナルをこの目で確かめたかったのである。

通常アメリカの国旗は星条旗と呼びならわしている。星条旗を最初に作成したのは、フィラデルフィアに住むベッツィ・ロスという主婦であった。

現在の星条旗は見慣れた国旗だが、最初の国旗から何回もの変遷をたどっている。横縞は数えると赤白合わせて13本あるが、それは合衆国に最初に参加した13州を表し、横縞は今も変わっていない。左上の青色の四角い囲いの中の星は50個あるが、1777年ベッツィ・ロス夫人が縫製したオリジナルの国旗は13州を表す13個の星を丸く繋げたものであった。その後新しい州が付け加わるごとに星を付け加えていき変遷は27回に及んだ。1960年にハワイが州になり最後の50個目の星となった。



ベッツィ・ロスの家



星条旗のオリジナル



現在のアメリカ合衆国国旗  
13本の横縞と50個の星

フィラデルフィアにある自由の鐘（リバティ・ベル）は、ニューヨークの自由の女神像（The Statue of Liberty）と並んでアメリカ合衆国の自由の象徴である。鐘は1753年に鋳造された。フィラデルフィアにあるペンシルバニア州議会議事堂（インデペンデンス・ホール）に吊るされた。

「世界の名鐘物語」によれば鐘には“地上全体と住む者すべてに自由を宣言せよ”と聖書の銘文が刻まれている。アメリカの独立宣言が公布された



自由の鐘 フィラデルフィア

ときに鳴らされ、またリバティ・ベルは奴隷解放のシンボルでもある。



人類初の空飛ぶ機械飛行機ライトフライヤー号

飛行機といえば誰しもライト兄弟を思い浮かべる。ライト兄弟は自転車屋を営みながら研究を続け、1903年世界で初めて人を乗せて空中を飛んだのである。その後二人はライト社を創業したが、その会社を売却し、それが現在のロッキード社へとつながっていく。ライト兄弟が開発した空気より重い空飛ぶ機械、即ち飛行機はライトフライヤー号と名付けられた。スミソニアン

学術協会が、世界で初めて飛行に成功した航空機として認め、ワシントンD・Cにあるスミソニアン航空宇宙博物館に展示している。(スミソニアン学術協会はイギリスの化学者スミソニアンの寄付による基金でワシントンD・Cに設立。アメリカ大統領を総裁とする国立学術研究機関であり、スミソニアン博物館はワシントンD・Cの広大な敷地に航空宇宙博物館、自然史博物館などを持ち人々に無料で開放している)

1927年、チャールズ・リンドバーグは単葉単発単座のプロペラ機、スピリットオブセントルイス号で大西洋無着陸横断飛行を成し遂げた。アメリカのニューヨークを飛び立ち大西洋を一跨ぎしてフランスパリに着陸した。人類初の快挙である。



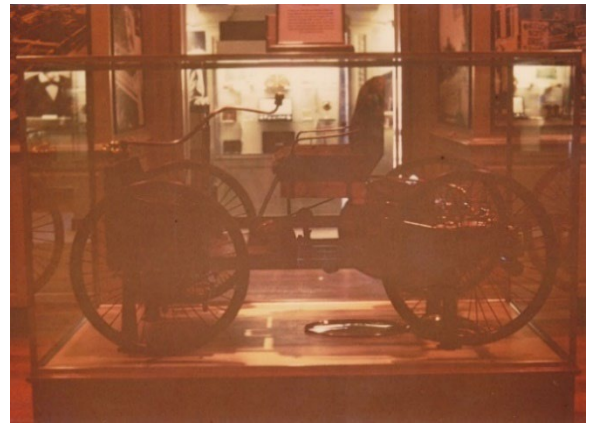
大西洋を横断したリンドバーグの飛行機

その距離 5、810 kmを33時間29分で飛んだ。センセーショナルなニュースは世界を駆け巡り人々は湧きたちリンドバーグは一躍有名人となった。彼の乗ったスピリットオブセントルイス号は現在アメリカワシントンD・Cのスミソニアン航空宇宙博物館に展示してある。リンドバーグはアメリカ合衆国の飛行家で、この飛行成功以来世界各地をへ巡り、1953年に「翼よ、あれがパリの灯だ」を出版し、翌年ピュリッツァ賞を受賞し映画にもなった。1970年に来日し大阪万博を訪れ、自身の愛機シリウス号の操縦席に10歳の浩宮様(現天皇陛下)を乗せた。



リンドバーグは1974年ハワイマウイ島の別荘で72歳の生涯を閉じた。

現代は車社会といわれ、自動車は最早日常生活に欠かせない社会である。自動車は言わずと知れたアメリカのヘンリー・フォードによって大量生産され車は大衆化された。アメリカの大手自動車メーカーのフォードはヘンリー・フォードが創業した企業であり、現在の自動車産業の基礎を築き、車社会の生みの親と言えよう。



フォード社の自動車第1号

デトロイトのフォードミュージアムは内燃機関で動く自動車や汽車など乗り物の展示をしている。見応えがあり乗り物好きには見逃せない博物館であろう。なお、ガソリン自動車の発明者はドイツのカール・ベンツであり、後の世界的企業であるメルセデス・ベンツ社へとつながっている。



⇒月着陸船

人類を月へ送り込むという夢のような国家プロジェクトを立ち上げたのはアメリカである。ジョン・F・ケネディ大統領の提案によってアポロ計画はNASA（アメリカ航空宇宙局）が有人宇宙飛行計画を発表し計画を遂行し実験を繰り返し、ついには1969年アポロ11号に乗ったアームストロングとオルドリンの二人がイーグルと名付けた着陸船で母船を離れ、月面着陸を果たし人類の第一歩を月面にくっきりと印した。

全世界がTVに釘付けになりかたずをのんで見守る中での成功である。スミソニアン博物館に展示してあるものは月面着陸船のレプリカである。本物は任務を終えて宇宙に置いてきたのである。原子爆弾は第2次世界大戦を終結させるためにアメリカが開発した大量殺戮兵器である。不幸にも日本は原爆を国土に落とされ、多くの人々が犠牲となり2つの美しい都市が壊滅した。日本は世界で唯一の被爆国である。

ルーズベルト大統領が原爆開発を決断し、1942年マンハッタン計画と称される原爆開発に着手し、アインシュタインも関係していた。1945年にはじめて原爆実験を行い、1945年8月6日に、テニアン島を飛びたったエノラゲイはリトルボーイと呼称される原爆を積み広島に投下した。次いで9日には長崎に2つ目の原爆が投下され、日本は終戦を迎えた。

第2次大戦終了後、東西冷戦時代を迎え各国の核開発競争が激化し、核の抑止問題は今日に至るも世界の大きな課題となっている。

ニューヨークからハドソン川沿いに行くと風光明媚な保養地ベアーマウンテンを過ぎ、その先にウェストポイント陸軍士官学校がある。1802年に設立した軍人養成のエリート校である。機会があつて訪れたウェストポイントミュージアムで、日本に落とされた原爆の模型を見た。殺風景な部屋にそれはあつた。玉子に尾ひれがついたような、ずんぐりした巨大な黒光りする鉄製の塊であつたが、こんなものが瞬時に人を14万人も殺戮し、大きな都市を壊滅させるのかと思わ

ず身震いがでた。一旦カメラに収めたが後日気持ちが落ち着かず写真は破棄してしまった。